

2013年12月17日

秋田県指定有形文化財「北鹿ハリストス正教会曲田福音聖堂」の

修復費用のご寄付のお願い

「曲田福音聖堂を守る会」代表・内田 青蔵（神奈川大学教授）

発起人：：井上祐一（文化学園大学教授）
内田青蔵（神奈川大学教授）
大里浩秋（神奈川大学教授）
大平茂男（伝統技法研究会理事長）
角 幸博（北海道大学名誉教授・
NPO 法人 歴史的地域
資産研究機構代表理事）
肥沼真理子（ニコライ研究家）
杉山経子（近代建築史研究家）
田島恭子（インテリア史研究家）
田中厚子（近代建築史研究家）
田所辰之助（日本大学教授）
西澤泰彦（名古屋大学大学院環境
学研究科准教授）
羽生修二（東海大学教授）
星 和彦（前橋工科大学教授）
安野 彰（文化学園大学准教授）

拝啓

時下益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、『秋田魁新報』に「教会老朽化、修復に協力呼び掛け 大館、資金確保へ慈善展示会」<http://www.sakigake.jp/p/akita/news.jsp?kc=20131214k> という記事が掲載されました。ここで取り上げられている建物の正式名称は、北鹿ハリストス正教会曲田福音聖堂というもので、明治25年竣工のロシア正教会の聖堂です。この曲田と呼ばれる地域の豪農として知られた畠山市之助が、自邸内に東京のニコライ堂建設に係った大工に依頼して建てたものです。

その建築的特徴は、外観は下見板張の穏やかで簡素なつくりであるものの、内部の聖所部分の天井はビザンチン式のドーム天井で、また祭壇をはじめとして内壁部はロシア帝室芸術院で学んだ山下リンが描いたイコンが飾られるなど、緊張感のある極めて質の高い見事な内部空間が見られることです。建築史的にも、コンドルの代表作品として知られるニ

コライ聖堂との関係も取りざたされるなど、興味深く、かつ、貴重な建築遺構といえるものです。このような大切な建築が、今、その存続の窮地に立たされています。

私は、この建物が現存する秋田県大館市の出身で、小学生の時に会った最初の教会堂建築でした。当時は、“曲田の教会”と呼ばれ、初めて見たときはその古びた木造の外観とは裏腹の美しい内部に魅せられ、なぜこんな美しい建築がこんな人里離れた田舎にあるのか、と不思議な気持ちになったことを今でも鮮やかな記憶として思い出します。

大学生の頃見学した後は、東京に住んでいることもあって、それ以来久しくその姿を見ませんが、この建物は故郷を代表する近代建築の遺構でもあり、現役を退いたらぜひ、帰郷して調査をしてみたいと密かに考えていた建築でした。しかしながら、明治25年の竣工の建物ですから、老朽化は進み、また、東日本大震災の被害で天井の装飾が痛み、修理が必要な状況にあるようです。ただ、現在のところ修理費（およそ550万円）のめどが立たず、困っているようです。

こうした状況を知るに至り、個人的な愛着もありますが、近代建築史研究に携わる一人として、この貴重な文化財を守り、後世に伝える必要を強く感じています。

つきましては、私だけでは力不足ですので、皆様にこの建物の魅力とその価値を理解していただき、この建物を維持していくための修理費のご寄付のご協力をお願いしたいと存じます。集まった寄付金は、私が責任を以てお届けし、併せて、工事の過程もご報告したいと考えておりますので、どうぞ、よろしく願致します。また、遠方ですが、一度、建物の魅力を体感していただくための見学会を開催したいと考えておりますので、よろしく願いたします。

なお、寄付金は、ご無理の無きよう一口5000円として一口以上をお願いできれば幸いです。重ねがさね、ご無理を承知の上でのお願いですが、どうぞ、よろしく願い申し上げます。なお、寄付金の振込先の口座は、以下の「曲田聖堂修復寄付金口」となります。

敬具

(P.S.:平成12年度に出版された『保存修理報告書』に建物概要が掲載されております。ご興味のある方はご一報いただければデータお送りします。)

●振込先 みずほ銀行・所沢支店・普通預金

口座番号：1463555

口座名：「曲田聖堂修復寄付金口」

なお、振込後は、その旨、下記のメールあるいは住所に御一報いただければ幸いです。

事務局：神奈川大学工学部建築学科内田研究室

住所：221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1

電話：045-481-5661 (内) 3433

mail：suchida@kanagawa-u.ac.jp



曲田の教会・秋



曲田の教会・冬



曲田の教会・内観